

### ●学校など公共施設で石けん使用促進を

学校等での石けん使用が後退し、合成洗剤が併用されている。区は、1999年に「石けん使用指針」を策定し、対象は区的全施設とした。手洗だけでなく、食器洗い、清掃についても、安全性が高く、環境にやさしい「石けんを含む製品の使用を基本とする」としてきた。

**質問** 石けんと合成洗剤の違いをどのようにとらえているか。

**答弁** 石けんは、添加物を含まない脂肪酸ナトリウム、脂肪酸カリウム 100%のもの。

**質問** 区施設、学校関係、それぞれ合成洗剤を使用している割合は？

**答弁** 区施設の状況は把握していない。学校では無添加の固形石けん又はアルボース液体石けん※を使用。（※アルボース石けんは石油から作られる合成色素を含む石けん）

**質問** 合成洗剤の併用が増えた理由は？

**答弁** O-157の問題が起きて殺菌力のあるものへの需要が大きくなった。

**【意見】**合成洗剤は、陰イオン系の合成界面活性剤が使われており、これが分解されずに残ってしまったまま水道水に入り込み、消毒のための塩素と反応し、遺伝的毒性をもつトリハロメタンを生じてしまいます。分解性が低く、魚などへの影響、浄水場での飲料水の汚染など、安全性だけでなく、環境面からも問題です。公共施設ではできるだけ無添加石けんの使用をすすめるべきです。廃油を回収し、再生石けんをつくり、区施設で利用することも循環社会の一環となるので、この取り組みも要望しました。

### ●子宮頸がん予防について

**質問** 4月から、予防接種法に基づく定期接種対象に追加されることになった。厚生労働省への副反応の報告はこれまで 800 件以上あるが、区の状況は？

**答弁** 筋肉注射なので、ショック症状と思われる短時間の失神の報告が2件あった。

**【意見】**杉並区では、生活者ネットの質問により、重篤な副反応の事例が発覚しました。子宮頸がんはウィルス性のがんであり、性教育や定期検診で充分予防でき、ここを強化すべきです。ワクチン接種にあたっては、接種の注意点や副反応についての情報を改めて提供することを要望しました。

●【学校給食費助成廃止】について、就学援助ぎりぎりの家庭や多子家庭では負担が大きく、未納家庭が増えることにもなりかねないことから、助成廃止を段階的に行うなどの緩和策を要望しました。

●増え続ける発達障がい児童・生徒が通常学級で勉強を続けられるように、【学習支援員】の速やかな配置を求めました。

●4月から都が待機児解消の支援として打ち出した、0歳～2歳児を対象とし、6人～19人を受け入れる【スマート保育】、通称「スマホ」（小規模保育整備促進支援事業）の検討を要望しました。

●【堤防強化】については、スーパー堤防事業はやめ、鋼矢板やソイルセメント連続地中壁を堤防中心部に設置するなどの手法に切り替えることを提案。長い年月を要さず、最小の費用で最大の効果があり、住民に過度の負担をかけない選択をすべきと、意見を述べました。

### 鹿本幼稚園を廃止する「江戸川区立学校設置条例の一部を改正する条例」に反対しました

鹿本幼稚園には現在、発達障がい児のための中央育成室が併設されていますが、幼稚園廃園後は発達障がい者（児）のための支援センターを作ることになっていました。しかし、今議会では、発達障がい児の増加により、今後、中央育成室の拡充のために使用すると、これまでの説明と異なることとなりました。保護者や地域には、4月になってようやく回覧・チラシなどでお知らせしている状況です。そもそも園児募集の停止が、住民説明から3カ月と、余りにも短期間であったため、もっと保護者・地域と丁寧話し合うべき、と意見を述べてきたところ。幼児教育、発達障がい児支援という重要施策を、計画性のないまますすめようとする区の姿勢は大いに問題であり、本条例に反対しました。【賛成 28：反対 13 で可決】